



東陽病院 院長 伊藤 文憲

# 健康への メッセージ

シリーズ 129

## 糖尿病 (I)

光町のみなさんこんにちは。今回は糖尿病のお話です。前回の高脂血症の際にも述べましたが糖尿病は栄養過多のこの時代を象徴する病気の一つです。平成14年の厚生労働省の糖尿病実態調査によると「糖尿病を強く疑われる人」は740万人、「糖尿病の可能性を否定できない人」は880万人で国民の1割が糖尿病もしくは予備軍であり、年々増加傾向にあります。糖尿病が国民病と言われるゆえんです。

健康な人では食事の摂取により血糖値が上昇すると膵臓の中の内分泌腺であるランゲルハンス島のβ細胞からインシュリンが分泌されます。血糖値が低下すると分泌が止まります。健康人ではこれらが自動制御されています。糖尿病は昔からある病気ですが、ホルモンの不足による血糖値の乱れによると考えられたのは最近です。インシュリンと名付けられたホルモンが発見されてまだ100年になりません。1921年にバンチングとベストにより膵臓のランゲルハンス島からインシュリンが抽出されました。これを重症の糖尿病患者に投与することにより始めて治療が可能となりました。

健康な人では血糖値は自動制御されていますが、膵臓のβ細胞の大半が破壊されインシュリンが絶対的に不足する「1型糖尿病」では発病が幼児期の場合にはその頃よりインシュリンを外部から補う必要があります。その為数十年にわ

たって投与を続けている患者さんいます。原因はβ細胞に対するアレルギーと考えられています。我が国の糖尿病のうち5%以下と少数です。多くの患者さんは「2型糖尿病」という成人になってから肥満を主体として相対的なインシュリンの不足が原因で発病します。濃厚な家族歴が認められその発症に遺伝素因が大きな位置を占めると考えられています。しかし、生活の欧米化に伴い糖尿病の有病率が急激に増加していることから遺伝だけではなく肥満、過食、運動不足、ストレス等の環境因子も影響しているものと思われま

れます。糖尿病の初発症状は、倦怠感や口渇、多飲、多尿、体重減少などです。症状が軽いと気がつかず、無症状の内に健康診断の際に尿中に糖分が検出されることから判明するケースが可成りあります。糖尿病は放置すると三大合併症といわれる失明などの網膜症、手足の感覚異常を起す神経障害、慢性腎不全となる糖尿病性腎症を起します。これらの合併症はいずれも長期にわたる高血糖の影響でありその予防には血糖値の厳重なコントロールが必要となります。尿中に糖分が出る病気が糖尿病以外にもありますので、糖尿病の診断は血液検査が必要です。空腹時血糖値126mg/dl以上、随時血糖値200mg以上、75gの経口糖負荷試験で2時間値200mg以上が糖尿病と診断されます。次回は治療についてお話しします。

### ※東陽病院の休日当番日

9月5日(日)、23日(祝) 午前8時30分～午後6時  
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎1335  
※相談窓口開催日 9月13日(月) 午前9時～正午

## 図書館開館記念企画映画会

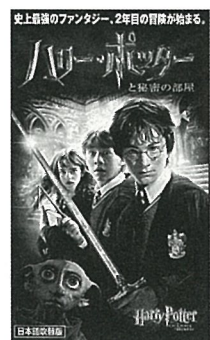


10月24日(日)  
『ハリー・ポッターと賢者の石』

10月31日(日)  
『ハリー・ポッターと秘密の部屋』

時間 午前10時・午後2時の2回上映  
定員 各回120名  
入場 整理券(無料)を10月9日(土)から図書館カウンターで配布します。

ほんの  
森  
=町立図書館=  
☎3311



### 休館日

9月6日(月)、7日(火)、13日(月)、20日(月)、27日(月)、10月4日(月)、5日(火)